

令和元年度 石巻市中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

令和2年6月

石巻市（宮城県）

全体総括

○計画期間：平成27年1月～令和2年3月（5年3月）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市は、平成27年1月に国の認定を受けた「石巻市中心市街地活性化基本計画」に基づき、目指す「まち」の姿「彩り豊かな食と歴史が薫る川辺のまち」の実現に向け、定住人口と交流人口の増加を目標に、東日本大震災で甚大な被害を受けた中心市街地で、復興事業を中心とした全70事業を展開し、都市機能の回復及び更なる活性化に取り組んだ。

定住人口は、「市街地再開発事業」や「復興公営住宅整備事業」の完了により、住宅の供給や商業施設の整備が進み、基準値を超える結果となったが、目標値は達成できていない。計画期間中に完了予定であった複数の「優良建築物等整備事業」が完了しておらず想定していた戸数の住宅が供給されていない点や、住民基本台帳上では転出や転居が非常に多いものの目立った空き家の増加が見られないことから、震災直後に中心市街地から住民票を移さずに避難した市民が、本計画の期間中に住民票を避難先へ移した事例が数多くある可能性などが原因として考えられる。

交流人口は、「かわまち交流拠点整備事業」により平成29年6月に川沿いエリアに整備された「いしのまき元気いちば」と、石ノ森章太郎先生の作品を中心としたマンガミュージアムである「石ノ森萬画館」の2施設の利用者数の合計が目標値を大きく超える結果となり、近年の中心市街地には無かった大きな賑わいの創出に成功している。一方で、歩行者・自転車通行量は基準値を超える結果ではあるが目標値を下回っており、主要な観光施設から街なか全体への賑わいの波及が課題となっている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度3月31日）

（中心市街地 区域）	平成25年度 （計画前年度）	平成26年度 （1年目）	平成27年度 （2年目）	平成28年度 （3年目）	平成29年度 （4年目）	平成30年度 （5年目）	令和元年度 （最終年度）
人口	2,777人	2,718人	2,882人	3,067人	2,967人	2,872人	2,878人
人口増減数※	△28	△59	164人	185人	△100人	△95人	6人
自然増減数	（データ抽出 不可）	（データ抽出 不可）	△36	△35	△29	△43	△42
社会増減数	（データ抽出 不可）	（データ抽出 不可）	194	218	△66	△49	50
転入者数	（データ抽出 不可）	（データ抽出 不可）	90	95	51	51	69

※システムの都合上、人口増減数は各年度の年度末の人口の差を表し、自然増減数及び社会増減数はその年度内の増減を表しており、3月31日～4月1日の変化が計上できないため、自然増減数及び社会増減数の和と人口増減数が一致していません。

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ① 概ね順調に進捗・完了した ② 順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
② 若干の活性化が図られた
③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

計画に位置付けた70事業のうち21事業が完了、45事業は計画通りに進捗した。復興事業を中心に、計画の変更や調整等に時間を要したことで進捗が遅れた4事業についても、すべて今年度中には完了予定であり、未着手の事業は0であることから、計画全体としては概ね順調に進捗・完了したと考える。

「中心市街地における定住人口」は、基準値は上回ったものの最新値は2,878人で目標値の3,812人を大きく下回った。しかし、急速な少子高齢化の進行に伴う自然減少の増加による市全体の人口減少傾向(H25.9末:151,068人→R1.9末:143,047人《-5.3%》)に反した増加《+3.6%》であり、計画の効果が表れている。

「2施設の利用者数」は目標値を超える結果であり、市全体の観光客数の増加傾向(H25:2,238,988人→R1:4,047,045人《1.8倍》)を更に大きく上回る増加(H25:806,460人→R1:1,978,203人《2.5倍》)となっており、計画に位置付けられた「かわまち交流拠点整備事業」や「石ノ森萬画館実施事業」等の取り組みによって、中心市街地に新たな賑わいを生むことに成功している。

「歩行者・自転車通行量」は、基準値は上回ったものの最新値は15,779人で目標値の16,950人を下回っている。「歩行者・自転車通行量」の計測値は計12地点の合計値であるが、その12地点から除外している「いしのまき元気いちば」周辺地点の値は、平日で6.1倍(H26:280人→R1:1,712人)、休日は16.5倍(H26:224人→R1:3,703人)と急激な増加を見せているため、主要な観光施設から周辺商店街等への賑わいの波及や、中心市街地全域の回遊性の向上を図る必要がある。

こうした状況を勘案し、一部に課題を残しているが、本計画によって中心市街地においては若干の活性化が図られたと考える。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
② 若干の活性化が図られた
③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

令和 2 年 6 月 10 日

石巻市長 亀山 紘 様

石巻市中心市街地活性化協議会

会長 青 木 八



第 2 期石巻市中心市街地活性化基本計画事業の取り組み等に対する意見書

中心市街地の活性化に関する法律(平成 10 年法律第 92 号)第 15 条 9 項の規定に基づき、第 2 期石巻市中心市街地活性化基本計画の事業実施経過について意見書を提出します。

記

・第 2 期計画の事業期間(平成 26 年度～令和元年度)中、石巻市の総人口は減少傾向にあったものの、中心市街地地域の人口は微増した。

要因として、「市街地再開発事業」「復興公営住宅整備事業」が完了した事により、中心市街地住環境の整備が進んだ事が挙げられる。

しかしながら、計画期間中に完了予定であった複数の「優良建築物等整備事業」が完了せず想定していた戸数の住宅の供給がなされなかった点等から目標値(H31…3,812 人/結果…2,878 人)とはかけ離れた状況にあり、今後の計画の見直しを求める。

・交流人口はインバウンド効果やイベント等の集客効果により、目標値(H31…1,241,200 人/結果…1,434,560 人)を超える状況になる事は大きな成果である。

今後、定住人口の大規模な増加は見込めないと思われるため、交流人口の増加に着目した取り組みで活性化を目指していただきたい。

また、昨今の新型コロナウイルス感染症感染拡大により、国内外からの交流人口が激減している状況にあるため、収束後は安全を確保しながら交流人口拡大に向け積極的に取り組んでいただきたい。

・第 2 期石巻市中心市街地活性化基本計画は様々な事業に着手し、目標値を達成するなど概ね順調に進行したものと捉える。

計画した 70 事業のうち 21 事業が完了され、49 事業が継続・変更され第 3 期計画へと引き継がれる事となるが、本計画の事業結果としては若干の活性化が図られたものと思われる。

今後、第 3 期計画に於いては、復興事業等で整備されたハード面を活かし、新たな交流や街中を回遊させるソフト事業の展開を進める必要があると思われる。

以上

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

令和元年度に行った「市民意識調査」の結果によると、中心市街地へ出かける(利用する)頻度や中心市街地へ居住することへの興味が、前回調査と比較してある程度向上していることから、市民意識の変化としても若干の活性化が図られたと考える。

○調査概要

・令和元年度 市民意識調査

調査対象者	市内に居住する無作為抽出した満18歳以上の男女2,700人
抽出方法	令和元年5月31日現在の住民基本台帳から各地区、年齢及び男女別の人口比率に基づき無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	令和元年7月5日～7月26日
回収数	1,115件(回収率41.3%)

・平成21年度 市民意識調査(前回調査)

調査対象者	市内に居住する無作為抽出した満20歳以上の男女2,500人及び市政モニター60人
抽出方法	平成21年6月30日現在の住民基本台帳から各地区、年齢及び男女別の人口比率に基づき無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	平成21年8月1日～8月14日
回収数	1,016件(回収率39.6%)

○石巻市中心市街地へ出かける(利用する)頻度

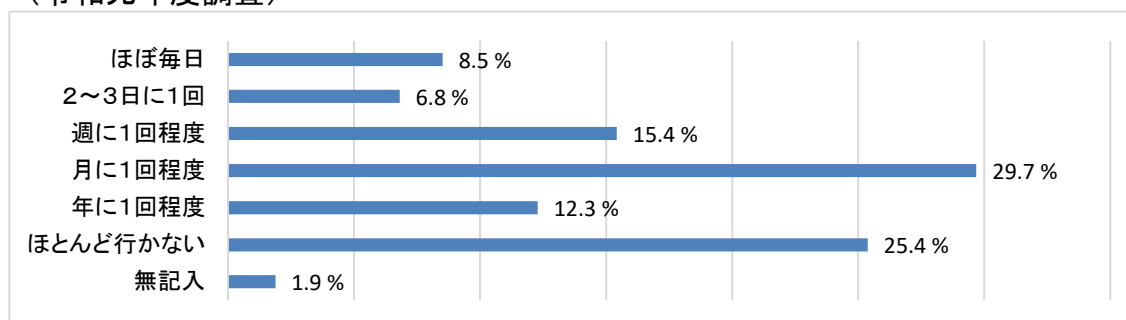
・「週1回以上」

前回:28.9% → 今回:30.7% ⇒ +1.8%

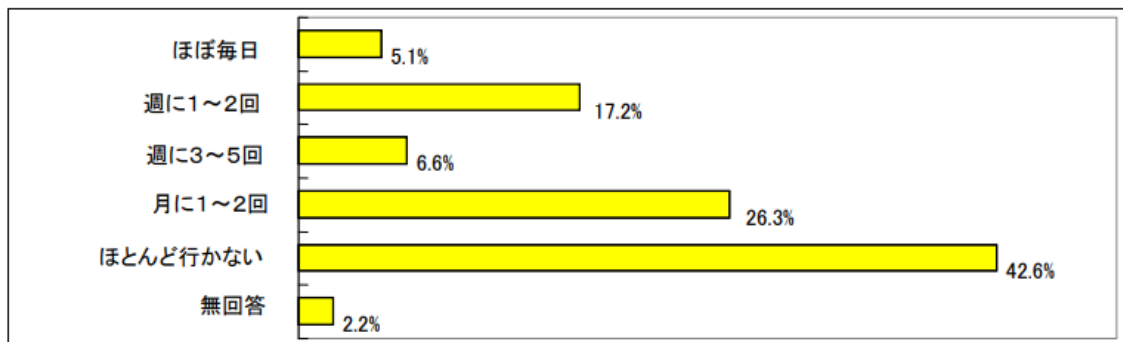
・「ほとんど行かない」+「年に1回程度」

前回:42.6% → 今回:37.7% ⇒ -4.9%

(令和元年度調査)



(平成 21 年度調査 (前回調査))



○中心市街地に居住することへの興味

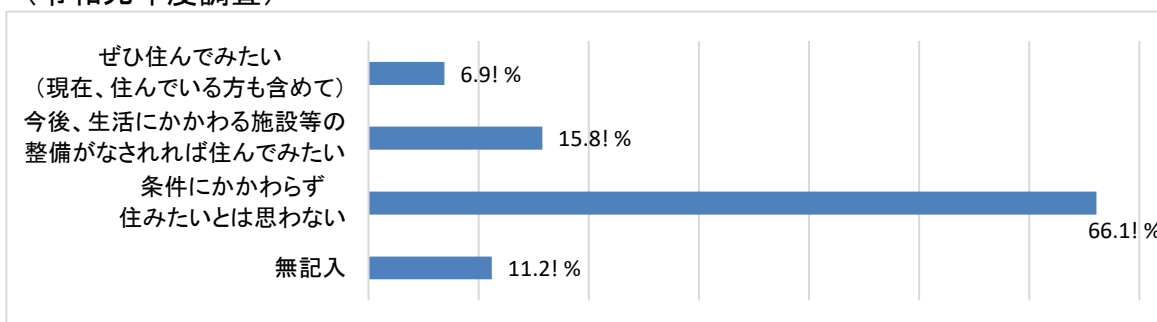
・「(条件が合えば)住んでみたい」

前回: 20.2% → 今回: 22.7% ⇒ +2.5%

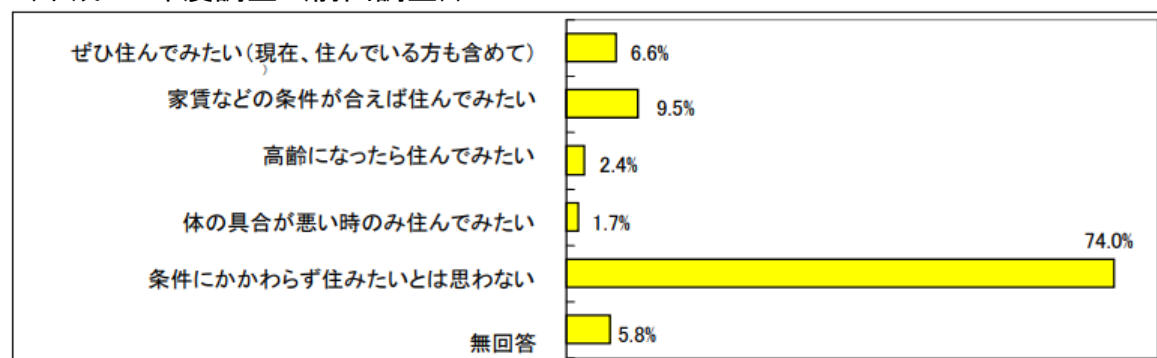
・「条件にかかわらず住みたいとは思わない」

前回: 74.0% → 今回: 66.1% ⇒ -7.9%

(令和元年度調査)



(平成 21 年度調査 (前回調査))



6. 今後の取組

本計画に位置付けられた各種事業は概ね予定通りに進捗・完了し、これらの取り組みによって、設定した3件の目標指標はすべて基準値を上回る結果となった。しかし、3件の目標指標のうち目標値を上回ったのは「2施設の利用者数」の1件のみである点や、事業効果で生まれた賑わいを中心市街地全体に波及しきれていない点、市民意識調査の結果が向上はしているものの依然として否定的・消極的な意見も目立つ点などから、更なる活性化に向けた一層の取り組みが必要という認識のもと、令和2年3月30日に、新たな計画である第3期石巻市中心市街地活性化基本計画の認定を受けたところである。

第3期石巻市中心市街地活性化基本計画は、復興事業によりハード整備が概ね完了した中心市街地において、完成した施設の有効活用に係る事業等のソフト面を中心とした計画となっており、本計画で得られた成果を活かしながらPDCAサイクルを継続することで、残存する課題について解決を図るとともに、更なる活性化に向けて取り組むものである。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	(参考) 目標の80%	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
定住人口の増加	中心市街地における定住人口	2,777人 (H25)	3,812人 (H31)	3,605人 (R1)	2,878人	R2.3	<u>b2</u>
交流人口の増加	2施設の利用者数	241,208人 (H25)	1,241,200人 (H31)	1,041,202人 (R1)	1,434,560人 (716,203人)※	R1	A
交流人口の増加	歩行者・自転車通行量	15,002人 (H25)	16,950人 (H31)	16,560人 (R1)	15,779人	R1.10	B2

※2施設の利用者数について、H30より積算方法変更（下段は既存の積算方法による）

注）達成状況欄（注：小文字のa、b1、b2、cは下線を引いて下さい）

A（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。）

a（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。）

B1（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。また、最新の実績では目標値の80%を達成。）

B2（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値の80%には及ばず。）

b1（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値の80%を達成。）

b2（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値の80%には及ばず。）

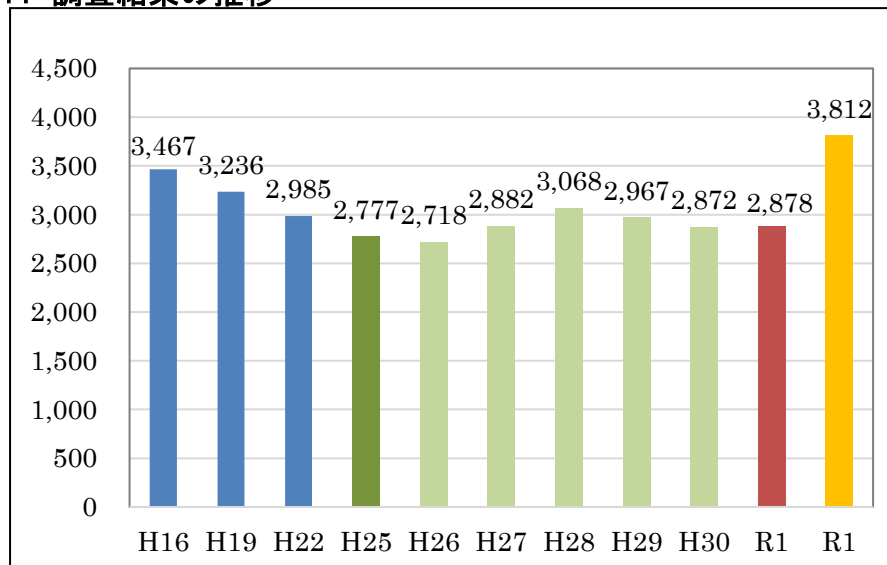
C（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。）

c（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。）

個別目標

「中心市街地における定住人口」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 63～P. 66 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H16	3,467 人
H19	3,236 人
H22	2,985 人
H25	2,777 人 (基準年値)
H26	2,718 人
H27	2,882 人
H28	3,068 人
H29	2,967 人
H30	2,872 人
R1	2,878 人
R1	3,812 人 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：毎年度3月末日

※調査主体：石巻市

※調査対象：中心市街地に居住する人数

2. 目標の達成状況【b2】

中心市街地における定住人口の増加に向けた事業については、「市街地再開発事業」は予定通り進捗・完了したものの「優良建築物等整備事業」は計画の変更や調整等に時間を要したことで複数の事業が完了しておらず、想定していた戸数の住宅が供給されていないことにより、計画当初に見込んでいた効果が得られなかった。

事業完了により住居が提供された年度は社会増減数が大幅にプラスになるため、増加傾向にある自然減少分を差し引いても定住人口は増加するが、それ以外の年度では社会増減数もマイナスとなり、定住人口は100名程度減少した。その結果、基準値は超えたものの目標値を大きく下回る結果となったため、達成状況は**b2**とした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 市街地再開発事業(民間事業者、市)

事業実施期間	平成24年度～平成30年度【済】 [認定基本計画:平成24年度～]
事業概要	被災市街地において、商業施設や住宅等の複合施設を建設するとともに、屋外空間の一体整備を行う再開発事業者に対して補助金を交付し、再開発事業を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	[支援措置] ① 復興交付金(市街地再開発事業・基幹事業)(国土交通省) ② 社会資本整備総合交付金(都市・地域再生緊急促進事業)(国土交通省) [支援期間]

	事業により異なる
目標値・最新値及び達成状況	[目標値] 380人 ※本事業を含めた復興公営住宅事業による目標値 [最新値] 316人 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	整備戸数(201戸)の整備は完了したが、再建方法の変更等で入居に至らなかったケースや単身入居率が高いことなどから目標値に達成しなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	被災者の再建先としての復興公営住宅事業の目的は達成された。
事業の今後について	住宅に困窮する低額所得者に対して、一般募集により入居を進めていく。(平成31年3月より一般募集開始済)

②. 優良建築物等整備事業(民間事業者)

事業実施期間	平成25年度～【実施中】
事業概要	被災した建築物の建替え事業に補助を行うことにより、市街地環境の改善と防災力の向上を図り、災害に強いまちづくりと震災復興を推進する。
国の支援措置名及び支援期間	[支援措置] 復興交付金(優良建築物等整備事業・基幹事業)(国土交通省) 防災・省エネまちづくり緊急促進事業(国土交通省) [支援期間] 事業により異なる(※事業数:6件)
目標値・最新値及び達成状況	[目標値] 811人 ※本事業を含めた民間分譲住宅整備による目標値 [最新値] 民間分譲住宅であり入居者数の把握は困難 ※参考 戸数見込み:327戸 戸数最新値:202戸(優建68+再開発134) (目標未達成見込み)
達成した(出来なかった)理由	計画の変更や調整等に時間を要したことで複数の事業が完了しておらず、想定していた戸数の住宅が供給されていない。
計画終了後の状況(事業効果)	整備済み事業により市街地環境の改善と防災力の向上が図られるとともに周辺地区の開発検討が進んだ。
事業の今後について	計画の見直し等に対応した上で今後も事業を継続していく。

4. 今後の対策

各事業の効果が計画当初の見込みほど得られなかった点が目標未達成の最大の要因であるが、少子高齢化の進行による自然減少の拡大や、震災により中心市街地から避難した市民が本計画期間中に住民票を移動していることが要因と思われる転出及び転居が極端に多い点

からも大きな影響を受けている。

本目標指標は第3期計画では参考指標として位置付けられており、引き続き効果の検証を行っていく。また、主要な目標指標としては新たに「社会増減数」を設定し、自然現象の影響を受けず、各種ソフト事業の展開による転出及び転居の抑制や、完了が遅れている優良建築物等整備事業の効果を図っていくこととしている。

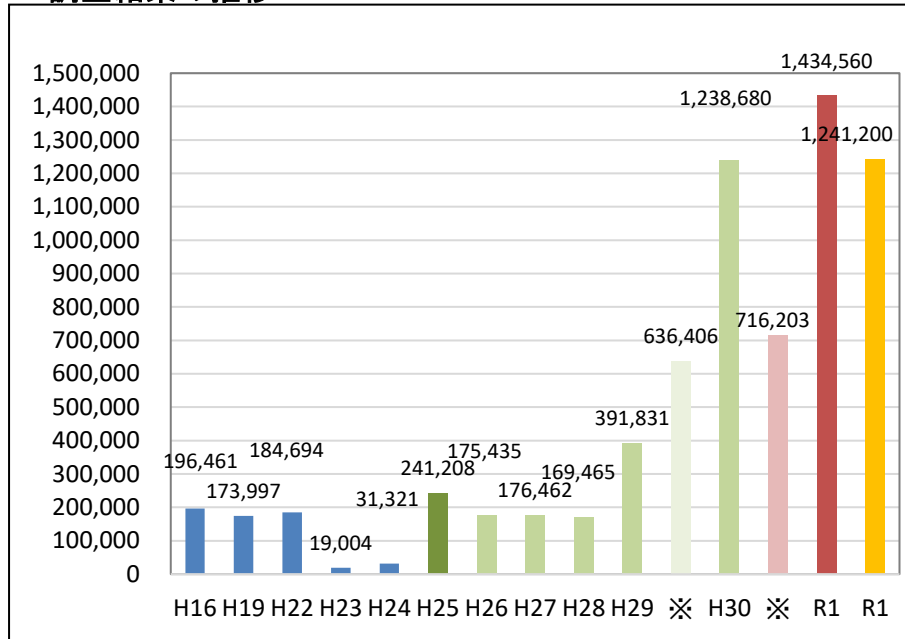
(参考)

(人)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
転出	69	67	81	74	75
転居	175	165	120	107	84
合計	244	232	201	181	159

「2施設の利用者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 67～P. 69 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H23	19,004 人
H24	31,321 人
H25	241,208 人 (基準年値)
H26	175,435 人
H27	176,462 人
H28	169,465 人
H29	391,831 人
H30	1,238,680 (636,406 人)
R1	1,434,560 人 (716,203 人)
R1	1,241,200 人 (目標値)

※調査方法：施設の利用者数の集計

※調査月：毎年度12月末

※調査主体：石巻市

※調査対象：石ノ森萬画館入場者数、いしのまき元気いちば利用者数

2. 目標の達成状況【A】

2施設の利用者数の増加に向けた事業については、概ね予定どおりに事業が進捗した。

「かわまち交流拠点(生鮮マーケット等)整備事業」によって完成した「いしのまき元気いちば」の利用者数が、周辺に駐車場や公共施設が整備されたことによる相乗効果や、イベントを毎週のように開催したことによって予想を大きく超える結果となり、目標を達成することができたため、達成状況はAとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①. 石ノ森萬画館実施事業(市)

事業実施期間	平成13年度～【実施中】
事業概要	石ノ森萬画館にて、「マンガの街いしのまき」を体感してもらうきっかけづくりとして各種事業を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし [認定基本計画: 中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(平成31年度)]
目標値・最新値及び達成状況	[目標値] 39,435 人 [最新値] 27,868 人 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	常設展示の定期的な入れ替えや企画展示及び各種イベントの開催などにより、3年連続で入場者数が増加しており、平成31年の5月には震災後最大の月間入場者数を記録したが、目標の達

	成までは至らなかった。
計画終了後の状況 (事業効果)	中心市街地の観光の核となる施設として平成13年度より運営され、例年20万人前後の観光客を呼び込んでいる。施設の運営で得た収益はまちづくり会社を通して中心市街地の活性化に還元される。
事業の今後について	今後もマンガや地域文化の発信・交流拠点として様々な企画を展開することで来街者の増加に貢献し、中心市街地の賑わいを創出していく

②. かわまち交流拠点(生鮮マーケット等)整備事業(市)

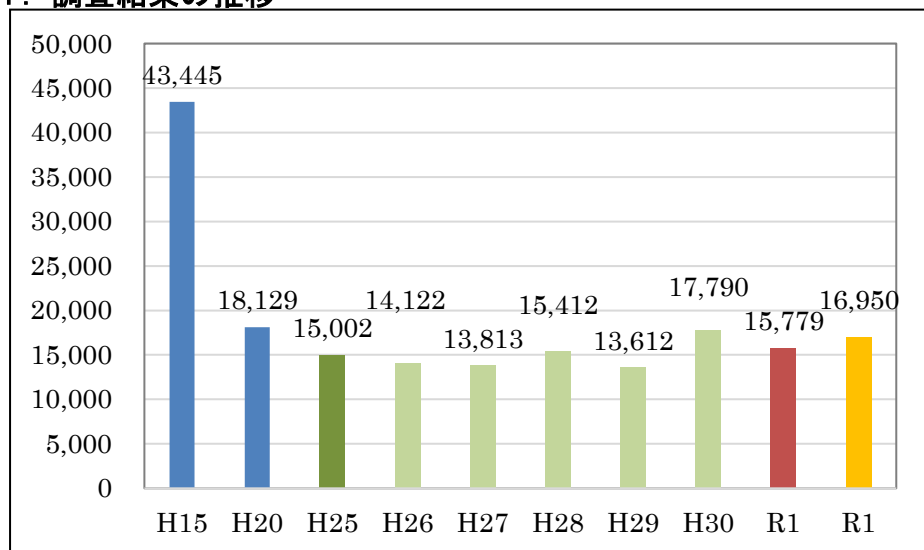
事業実施期間	平成25年度～令和2年度【実施中】
事業概要	街なかの賑わい創出を図るため、川と一体的なまちづくりとして、生鮮マーケット・公共施設・交通広場等で構成される観光交流拠点を土地区画整理事業等により整備する
国の支援措置名及び支援期間	[支援措置] ① 復興交付金(被災市街地復興土地区画整理事業・基幹事業、効果促進事業)(国土交通省) ② 復興交付金(暮らし・にぎわい再生事業(中央地区)・基幹事業、効果促進事業)(国土交通省) [支援期間] ① 平成26年度～令和2年度 ② 平成26年度～平成29年度
目標値・最新値及び達成状況	[目標値] 1,000,000人 [最新値] 1,204,927人 目標達成
達成した(出来なかった)理由	周辺施設の整備が進んだことによる相乗効果や、イベントを毎週のように開催したことにより、多数の利用者を獲得することに成功した。
計画終了後の状況 (事業効果)	周辺の歩行者・自転車通行量は急激に増加し、近年の中心市街地には無かった大きな賑わいの創出に成功している。
事業の今後について	いしのまき元気いちば北側に令和2年度中に整備される広場や、河川堤防上の空間を含めた川沿いエリア全体のエリアマネジメントにより、更なる賑わいが期待される。

4. 今後の対策

「いしのまき元気いちば」の利用者数が目標値を大きく上回ったほか、「石ノ森萬画館実施事業」についても、個別の目標値の達成には至らなかったが順調に利用者数が伸びている。

本目標指標は第3期計画にも位置付けられており、今後も各施設で継続してイベントを開催するとともに、街なか各所で行われるイベントの情報共有及び連携の促進や、新たに整備される周辺施設を含めたエリア全体での集客効果により、更なる利用者数の増加を図る。

1. 調査結果の推移



年	(人)
H15	43,445 人
H20	18,129 人
H25	15,002 人 (基準年 値)
H26	14,122 人
H27	13,813 人
H28	15,412 人
H29	13,612 人
H30	17,790 人
R1	15,779 人
R1	16,950 人 (目標値)

※調査方法：石巻市中心市街地通行量調査

※調査月：平成 15 年 10～11 月、平成 20 年 5 月、平成 25 年 11 月、平成 27 年 3 月、平成 27 年 11 月、平成 28 年 5 月、平成 29 年 11 月、平成 30 年 10 月、令和元年 10 月

※調査主体：石巻市

※調査対象：平日、休日における歩行者と自転車通行量の合算値

2. 目標の達成状況【B2】

歩行者・自転車通行量の増加に向けた事業については、概ね予定どおりに事業が進捗した。しかし、事業効果により各所に生まれた賑わいを、街なか全体へ波及させることができず、基準値は超えたが目標の 80%には及ばなかったため、達成状況はB2とした。

なお、平成 30 年度の実績は目標値を上回っていたため、目標達成見込みとしていた。平成 30 年度調査の休日の調査日は、ウォーキングアプリ「ポケモンGO」のイベント開催日が重なっており、平時の数値とは若干の上乗せがあったものと予想していたが、その差異が予想を大きく上回るものであったことから、見込み通りの結果に至らなかった。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 【再掲】石ノ森萬画館実施事業(市)

事業実施期間	平成 13 年度～【実施中】
事業概要	石ノ森萬画館にて、「マンガの街いしのまき」を体感してもらうきっかけづくりとして各種事業を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(平成 31 年度)]
目標値・最新値及び達成状況	[目標値] 1,486人 [最新値] 実数は測定不能であるが、入場者数の実績から 1,300～1,400 人程度の通行量増加に寄与したと推測される。

	(目標未達成見込み) ※参考 R1入場者数見込み:241,200 人 R1入場者数最新値:229,633 人
達成した(出来なかった)理由	常設展示の定期的な入れ替えや企画展示及び各種イベントの開催などにより、3年連続で入場者数が増加しており、平成31年の5月には震災後最大の月間入場者数を記録したが、目標の達成までは至らず、歩行者・自転車通行量調査の結果へ与えた影響も、目標値までは至らなかったものと思われる。
計画終了後の状況(事業効果)	中心市街地の観光の核となる施設として平成13年度より運営され、例年20万人前後の観光客を呼び込んでいる。施設の運営で得た収益はまちづくり会社を通して中心市街地の活性化に還元される。
事業の今後について	今後もマンガや地域文化の発信・交流拠点として様々な企画を展開することで来街者の増加に貢献し、中心市街地の賑わいを創出していく

②.【再掲】かわまち交流拠点(生鮮マーケット等)整備事業(市)

事業実施期間	平成25年度～令和2年度【実施中】
事業概要	街なかの賑わい創出を図るため、川と一体的なまちづくりとして、生鮮マーケット・公共施設・交通広場等で構成される観光交流拠点を土地区画整理事業等により整備する
国の支援措置名及び支援期間	[支援措置] ① 復興交付金(被災市街地復興土地区画整理事業・基幹事業、効果促進事業)(国土交通省) ② 復興交付金(暮らし・にぎわい再生事業(中央地区)・基幹事業、効果促進事業)(国土交通省) [支援期間] ① 平成26年度～令和2年度 ② 平成26年度～平成29年度
目標値・最新値及び達成状況	[目標値] 2,684人 [最新値] 実数は測定不能であるが、入場者数の実績から3,100～3,200人程度の通行量増加に寄与したと推測される。 (目標達成見込み) ※参考 R1入場者数見込み:1,000,000人 R1入場者数最新値:1,204,927人
達成した(出来なかった)理由	周辺施設の整備が進んだことによる相乗効果や、イベントを毎週のように開催したことにより、多数の利用者を獲得することに成功し、歩行者・自転車通行量調査の結果へ与えた影響も、非常に大きかったと思われる。
計画終了後の状況	周辺の歩行者・自転車通行量は急激に増加し、近年の中心市

(事業効果)	街地には無かった大きな賑わいの創出に成功している。
事業の今後について	いしのまき元気いちば北側に令和2年度中に整備される広場や、河川堤防上の空間を含めた川沿いエリア全体のエリアマネジメントにより、更なる賑わいが期待される。
③. 石巻市立病院整備事業(市)	
事業実施期間	平成 23 年度～平成 28 年度
事業概要	震災により、壊滅的な被害を受けた石巻市立病院について、平成 28 年9月開院を目指して再建整備及び医療機器等購入を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	[支援措置] 地域医療復興事業補助金(厚生労働省) [実施期間] 平成 23 年度～平成 28 年度
目標値・最新値及び達成状況	[目標値] 522人 [最新値] 実数は測定不能であるが、外来及び入院患者数の実績から 350 人程度の通行量増加に寄与したと推測される。 (目標未達成見込み) ※参考 一日平均外来患者数見込み(H30):300人 一日平均外来患者数最新値(R1):172.9人 一日平均入院患者数見込み(H30):145人 一日平均入院患者数最新値(R1):134.2人
達成した(出来なかった)理由	平成 30 年4月には常勤医師が21名在職していたが、令和2年3月末時点では16名と医師の離職が続いたことにより、外来及び入院患者数について、達成することができなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	東日本大震災により壊滅的な被害を受けたことから、交通結節点である石巻駅周辺に地域密着型病院として再建したことにより、公共交通機関を利用し来院する人が多く、人の流れに変化が生じている。
事業の今後について	公立病院としての役割を果たすとともに、地域から選ばれる病院として診療行為のみならず、院内において健康講座を実施するなど、より多くの健康な方々にも病院に足を運んでいただくことで、中心市街地の賑わいの創出が期待される。
④. 石巻市子どもセンター事業(石巻市)	
事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	子どもセンターは、立町大通り商店街の中に位置しており、小中高生が中心となって中心市街地活性化に係る商店街との連携企画を実施するもの。
国の支援措置名及び支援期間	[支援措置] 子ども・子育て支援交付金(内閣府) [支援期間]

	平成 28 年度～
目標値・最新値及び達成状況	[目標値] 112人 [最新値] 実数は測定不能であるが、来館者数の実績から 120 人程度の通行量増加に寄与したと推測される。 (目標達成見込み) ※参考 一日平均来館者数見込み:80人 一日平均来館者数最新値:85人
達成した(出来なかった)理由	指定管理による民間事業者の柔軟な運営と、施設を利用する子どもたちの主体的な意見を取り入れながら、地域に根ざした活発な活動を行ったため来館者数が増えた。
計画終了後の状況(事業効果)	新型コロナウイルス感染症対策によって現在休止しているが、開館中は小中高生や親子連れに利用され、行事等を開催することができた。
事業の今後について	今後も子どもの権利・子ども参加の理念に基づき、小中高生を中心に中心市街地活性化のための企画等を商店街と連携して実施し、利用者の増加につなげていく。

4. 今後の対策

目標値の達成には至らなかったが、各施設の集客効果は概ね目標達成に必要な十分な実績となっているため、新たに生まれた賑わいの街なか全体への波及が今後の課題となっている。

本目標指標は第3期計画にも位置付けられており、引き続き効果の検証を行う。また、第3期計画では参考指標として「中心市街地回遊率」を設定し、中心市街地の回遊性の向上を図ることとしている。「石巻マンガロード整備活用事業」や、「街なか集客販促イベント共同化事業」などにより、主要な施設だけでなく街なか全体の魅力を高め、賑わいを波及させることで、目標の達成を図る。